

### 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	杼木県真岡市石島463		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0">www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成29年11月8日		

法人全体で身体拘束に関する研修会や事例検討会を開いている。事業所会議では業務の中で身体拘束になり得るケアについて話し合い、確認し合っている。さらに、身体拘束の具体的な行為を書面にし、誰でも目にするように玄関に掲示している。

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームは近くを走るSLの汽笛の音を聴きながら、田園に囲まれるのどかで、穏やかな環境のもと、利用者一人ひとりが安心して、楽しみ、生きがいを持って共同生活が送れるよう支援しています。また、自主性を尊重し、個々の要望に出来る範囲内で応じ、ご家族との語らいを大切に考え、手厚い介護体制を提供しています。併設施設があり、行事の充実、看護師との連携が密に図れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・地域に根付いた取り組みと地域との付き合いを大切にしている。地域の幼稚園や中学校の行事に参加し、子供たちとの交流が定期的に行なわれ、利用者の楽しみとなっている。散歩の際には挨拶や会話を交わすことが日常的になっている。事業所で行う、芋煮会などの行事には地域の人を招き、一緒に楽しみを共有するなど地域との交流を深めている。
- ・食事に対する創意工夫と楽しみに力を入れている。一人ひとりの食べるペースに合わせた配膳や食事制限に対応した食事支援を行っている。農園で野菜と一緒に育て収穫した野菜を食卓に出したり、手作り昼食会の機会を設けたり、皆で買い物に行く等、食事を楽しむ工夫をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームさくらの理念をケア室に掲示し全職員で共有し実践につなげています。	地域や家族と共に利用者本位の生活を支えていくことを目的とした理念を掲げている。朝礼や会議等で支援状況の確認及び話し合いを通して理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の幼稚園や中学校、文化保存会との交流や施設行事での地域との交流を日常的に行っています。	地域の幼稚園や中学校の子供たちとの交流が定期的に行なわれ、入居者の楽しみとなっている。また、散歩の際には挨拶や会話を交わすことが日常的になっている。事業所で行う、芋煮会や納涼祭などの行事には地域の人を招き、楽しみを共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流時、利用者の実態を説明、意見を聞き、出来ることがあれば介護に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催。利用者の状況や活動の報告をすると共に話し合いを行っている。	市地域包括センター、地域の区長民生委員、利用者やその家族、職員がメンバーとなり報告や話し合いを行なっている。食事を介しながら会議を開くなど会議が円滑にいくように、工夫している。会議では、地域情勢や市の取り組み情報が得られ、サービスの向上につなげている。	現在の参加メンバーに加え折々の話題に応じて運営上の支援に関係する方の参加を要請する等、運営推進会議の更なる充実を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や市に出向いて、現状報告、協力依頼している。	市に対して、利用者の要介護度変更や入退所時の情報等、現状を報告している。また、対応に苦慮する案件などは、市に相談をしながら解決する等、連絡を密にして協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を、実施している。ケア室内、毎月の部署会議に話し合い掲示し身体拘束をしない取り組みをしている。	法人全体で身体拘束に関する研修会や事例検討会を開いている。事業所会議では業務の中で身体拘束になり得るケアについて話し合い、確認合っている。さらに、身体拘束の具体的な行為を書面にして、誰でも目にするように玄関に掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や部署会議、職員研修において学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだり、施設内にパンフレットを提示し、活用に努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、管理者が家族に対して十分に説明しその後、管理者が家族と話し合い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった際は管理者が話し合いを持つ。	利用者からは普段の会話や言動の中で要望を得るようにしている。家族に関しては、年3回の家族会議で意見や要望などを積極的に聴くようにしている。また面会時には、本人の状態や様子を伝えるときにも、要望を聴いて、支援に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護の現場の声が尊重され適切な決定がされている。	普段の会話や申し送り時に職員から意見を聴いている。話しづらいことは書面で意見や要望を伝えられるようにしており、状況に応じ個別に話し合うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットケアや認知症介護実践、研修受講、その他職員の経験や力量に応じた必要な研修が受けられるよう体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内グループホーム連絡会議に参加し、意見交換や勉強会があり介護向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話や表情、態度もよく観察し不安等くみ取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状況などをこまめに報告して家族が抱えている不安・要望などを汲んで信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが提供出来るよう、本人、家族の話をよく聞き助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場である事を理解し、共に日常生活を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いを大切に関係が継続できるよう連絡を取り合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族(妻や娘等)の面会を定期的にお願したり、買い物や床屋に通い続けられるよう支援している。併設施設の友人と会っている。	家族の協力を得て、馴染みの理髪店や呉服屋などに出掛けている。友人や知人が訪ねてきた時は、自分の部屋やリビングなど好きな場所での面会が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間を大切にしたり、レク活動で利用者同士関係を深めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設等の移り先で、混乱や不安を防ぐよう、情報を提供している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない会話や表情からも希望や意向をくみ取ったり、家族からも話を聞いて検討している。	普段からコミュニケーションを図るようにしており、さりげない言葉でも見逃さないようにしている。意思疎通が難しい方には、表情・仕草などから思いを把握したり、筆談をしている。また家族から話を聞いている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のペースがこれからも継続出来るよう、本人、家族から話を聞いたり把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、談話・表情・行動で状態を把握し、毎日の昼夜の日誌の記録で全職員が情報の共有をできるように努めています。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回モニタリング、3ヶ月に1回ケース会議 又必要に応じ、本人、家族、職員が参加し現状課題を話し合い介護計画を作成している。	利用者担当職員がおり、一人ひとりの介護計画に関わっている。定期的なケース会議にも担当者をはじめ利用者・家族が参加し、関係者間でのケアの方法や支援内容の確認を行い計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・ケース記録・介護経過記録・申し送りノートに記入し、状況の変化に応じ職員全体で情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があり、利用者・家族の要望に応じ、相談・協力を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店、道の駅、公園病院へ外出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医の継続、協力病院や専門の医療機関と協力し適切な医療が受けられるよう協力体制が整っている。	かかりつけ医の受診は、原則家族対応であり、生活の様子や身体状況は家族を通して医療機関に知らせている。必要に応じて協力医を利用すると共に隣接する法人の看護師の支援を受けて、適切な医療に繋げる体制を取っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設より毎週月曜日に看護師が来て健康チェックを行い、相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に医療機関との情報提供、交換を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状において、常に家族に報告し、予想される状態において理解を得るようにし家族の意向を確認し、共有を図っている。	事業所で出来る支援について入居前や状況に応じて家族に説明をしている。職員には、事業所での看取りや重度化に向けた方針の説明や、緊急時の対応マニュアルを作成し共有するようにしている。また、医者や法人の看護師とは日頃から状態の連絡をする等、医療との連携に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施している。緊急時の対応マニュアルがケア室にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部、二宮分署との協力の元、定期的に避難訓練や消防訓練を行っている。スプリンクラーの設置や備蓄の整備がされており法人全体の緊急連絡網がある。	年2回の避難訓練には消防署が立会い、利用者と職員が参加して行なわれている。同敷地にある法人内での協力体制が図れており、対応マニュアルも作られている。スプリンクラーが設置されており、災害時に備えた備蓄品も管理されている。	福祉専門職集団としての知識や経験を活かして、災害発生時には避難拠点として活用が出来ることをPRする等、地域への働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる事は個別に対応したり自尊心を大切に支援を行っている。	トイレや入浴時には利用者の尊厳に配慮した声掛けや対応をしている。また、同性介助を可能な限り心掛けている。入居者同士のトラブルを未然に防ぐためにテーブルの配置に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い信頼関係作りに務め、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、一日をどのように過ごしたり、希望に添って支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれができる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回、手作りおやつ、昼食等で食べたいものを取り入れ実施している。	一人ひとりの食べるペースに合わせた配膳をしたり、個々の食事に関する制限食等の注意事項をキッチンに張り出し間違えないようにしている。一緒に収穫した野菜を食卓に出したり、手作り昼食会の機会を設けたり、皆で買い物に行く等、食事を皆で楽しめる工夫をしている。配膳や片づけを一緒に行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ食事量、形態を工夫、一緒に食事を摂り把握に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛け見守り介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用を基本に支援している。状態に合わせて個別対応を行っている。	トイレ誘導を基本に支援をしている。ズボンの上げ下げが難しい人、一人ではトイレ動作が困難な人は職員二人で対応するなど可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。夜間にトイレまでの移動が大変な人はベッド脇に簡易トイレを置いて、安心して用を足せるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探り、食事、水分、運動等で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調に合わせて、希望に応じた入浴支援を行っています。季節行事に沿った入浴が楽しめるように工夫しています。随時、本人の希望に添って入浴を行うようにしています。	入居者の希望に応じて午前でも午後でも入浴出来るようにしている。入浴は基本的に週2回を目安としているが、希望者や皮膚トラブルがある人などは適宜対応している。入浴を拒む場合には声掛けに工夫したり、日をずらすなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動をしたり、生活のリズムを崩さないようにしている。室内環境の配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、把握している。病状の変化にも注意し、医師、看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせた役割や楽しみを実施し、生活が快適に送れるように支援している。(園芸、レク、趣味、行事等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外出されたり、職員と一緒に近隣のスーパーへ買い物(馴染の衣類店、日用品店)、散歩等実施している。	田園に囲まれた穏やかな散歩コースは、季節の移ろいや風景を肌で感じられる環境である。天気の良い日は数人での散歩を行っている。近所の神社にもお参りに行っている。ドライブツアーで道の駅や商店街などにも出かけている。	戸外への散歩の機会を増やしたり、普段はいけないような場所への外出支援にも期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望能力に応じ、個人所有、預かりの実施 使用、所持はいつでもできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により実施している。 実施に当たり家族とも相談を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日利用者との清掃の実施。 季節に応じた、花を飾ったり農園で採れた野菜を飾ったり季節感を採り入れている。	季節の花や果物をリビングや玄関に飾り、季節感を採り入れている。また、入居者が作った作品をリビングに展示するなど生活感も感じられる。 リビングには畳とコタツがあり、入居者が寝そべったり、お茶を飲んだり、皆で団らんし寛げるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイス等様々な場所に設置し、自由に過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を継続して使用できるよう家族にも協力を得て居室環境の工夫を行っている。	全室畳張りでもあり、どの部屋も温かみが感じられる。ベッドや筆筒などの使い慣れたものが持ち込まれている。本人・家族と家具の配置や向きを相談しながら、居心地よい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすく、馴染みやすい時計や大きな暦を目につく所に設置し対応している。トイレや居室も分かりやすいよう工夫し、手すりもホール内、各所へ設置されている。		